

# 台東区障害者実態調査 報告書

---

## 概要版

平成28年12月  
台東区



## 目 次

第 1 章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
(1) 調査対象者及び対象者数	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 調査票回収数及び回収率	1
3. 報告書の見方	2
第 2 章 調査結果	3
1. 基本的属性	3
(1) 性別、年齢	3
(2) 障害の種類と程度	4
(3) 難病等の方が障害福祉サービス等の対象に加わったことの認知度	6
2. 暮らし方について	7
(1) 現在の暮らし方	7
(2) 将来希望する暮らし方	8
(3) 現在の居住地と将来希望する居住地	10
3. 日常生活について	11
(1) 生活の中での悩みごと	11
(2) 現在の日中の過ごし方	12
(3) 就労状況	14
(4) 働きやすい環境にするために必要なこと	15
(5) 希望する日中の過ごし方	16
4. 障害福祉サービスについて	18
(1) 障害福祉サービスの利用状況	18
(2) サービスの支給決定内容の満足度	18
(3) 障害支援(程度)区分の認定状況	19
(4) 今後、充実を希望するサービス	20
5. 自立支援医療などについて	22
(1) 自立支援医療の利用状況	22
(2) 医療的ケアの必要性	22

6. 権利擁護について	23
(1) 成年後見制度の認知度	23
(2) 障害者虐待防止法の認知度	23
(3) 障害者虐待防止センターの認知度	24
(4) 障害者差別解消法の認知度	24
7. 区に対する要望などについて	25
(1) 災害時に必要とするもの	25
(2) 地域で安心して暮らすために重要と思う施策	26

# 第 1 章 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、障害者（児）の生活実態及び要望等を把握し、「第 5 期台東区障害福祉計画」（平成 30 年度～32 年度）を策定するための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査の概要

### (1) 調査対象者及び対象者数

区分	対象	抽出方法	対象者数
身体障害者	身体障害者手帳所持者	無作為抽出	710 人
知的障害者	療育手帳（愛の手帳）所持者	無作為抽出	100 人
精神障害者	精神障害者保健福祉手帳所持者	無作為抽出	140 人
難病患者	難病医療費等助成の受給者 （障害者手帳非所持者）	無作為抽出	130 人
発達障害児	障害児通所支援利用者 （障害者手帳非所持者）	無作為抽出	20 人
合 計			1,100 人

### (2) 調査方法

郵送配付、郵送回収（無記名）

ただし、対象者の約 1 割は職員による訪問配付・回収

### (3) 調査期間

平成 28 年 9 月 14 日～10 月 7 日

### (4) 調査票回収数及び回収率

A：対象者数	B：回収数	C：回収率 ( $B/A \times 100$ )
1,100 人	768 人	69.8%

### 3. 報告書の見方

#### ○百分率について

百分率(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。

#### ○図表の単位について

本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「%」であらわしている。

#### ○単純集計及び分析について

質問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を百分率(%)の大きなものから小さなものへと並びかえた「ランキング集計」を行っている場合がある。

#### ○クロス集計※及び分析について

各調査の対象者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、障害別等を分析の柱とするクロス集計表を掲載し、分析を行っている。

分析の柱である障害別は複数回答項目であり、クロス集計表においては分析の柱となる項目の「無回答」の掲載を省略している。そのため、分析軸(タテ軸)の回答者数の合計値と「全体」の数値は一致しない。

また、クロス集計表においては、傾向をよりわかりやすくするために、もっとも割合の高い選択肢の数値を太字・斜体になっている。

※クロス集計とは、例えば障害別の性別(3ページ)など、2つの項目に着目してデータの集計や分析を行うこと。

## 第2章 調査結果

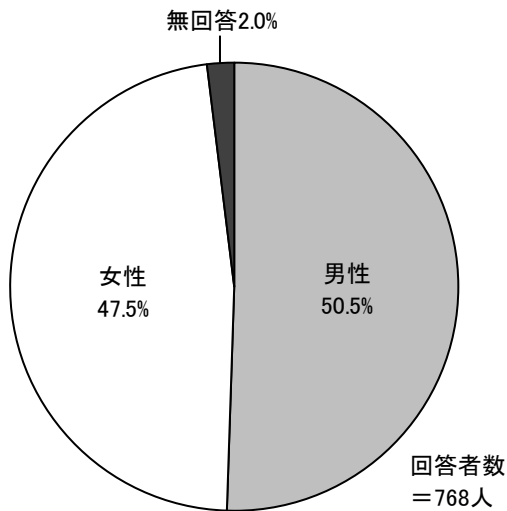
### 1. 基本的属性

#### (1) 性別、年齢

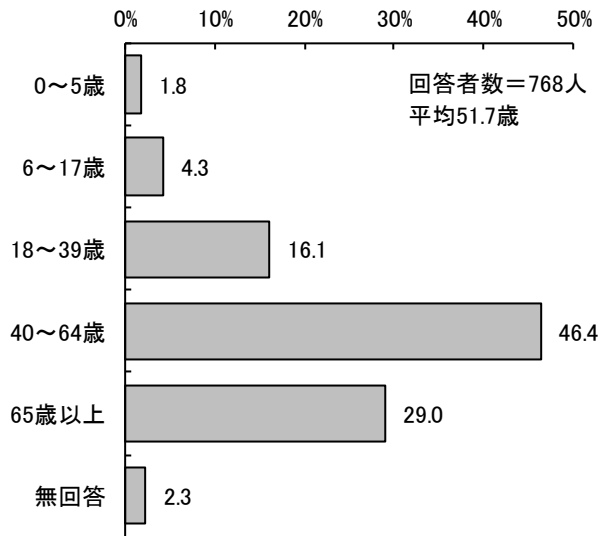
性別は、「男性」50.5%、「女性」47.5%であり、ほぼ半々となっている。

年齢は、「40～64歳」が46.4%と約半数を占める。次いで、「65歳以上」29.0%、「18～39歳」16.1%であり、平均年齢は51.7歳となっている。

図表1 性別(単数回答)



図表2 年齢(単数回答)



#### <障害別にみたポイント>

- ・身体障害者、精神障害者、難病医療費等助成利用者、高次脳機能障害者は「40～64歳」の年齢層の割合がもっとも高い。特に高次脳機能障害者は8割台となっている。
- ・知的障害者は「18～39歳」、発達障害児(者)は「6～17歳」の年齢層の割合がもっとも高くなっている。

図表3 性別・年齢(障害別)

(単位: %)

障害別	回答者数(人)	男性	女性	無回答	0	6	18	40	65	無回答	平均年齢(歳)	
					5	5	5	5	歳以上			
全体		768	50.5	47.5	2.0	1.8	4.3	16.1	46.4	29.0	2.3	51.7
障害別	身体障害者	509	52.3	46.2	1.6	1.2	2.4	12.6	47.2	34.6	2.2	55.8
	知的障害者	99	47.5	51.5	1.0	3.0	16.2	39.4	34.3	4.0	3.0	33.4
	精神障害者	112	50.0	48.2	1.8	0.0	2.7	25.9	52.7	17.0	1.8	46.4
	難病医療費等助成利用者	128	46.9	51.6	1.6	0.8	0.0	12.5	51.6	32.8	2.3	54.8
	高次脳機能障害者	6	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	46.2
	発達障害児(者)	23	39.1	56.5	4.3	21.7	39.1	34.8	4.3	0.0	0.0	17.5

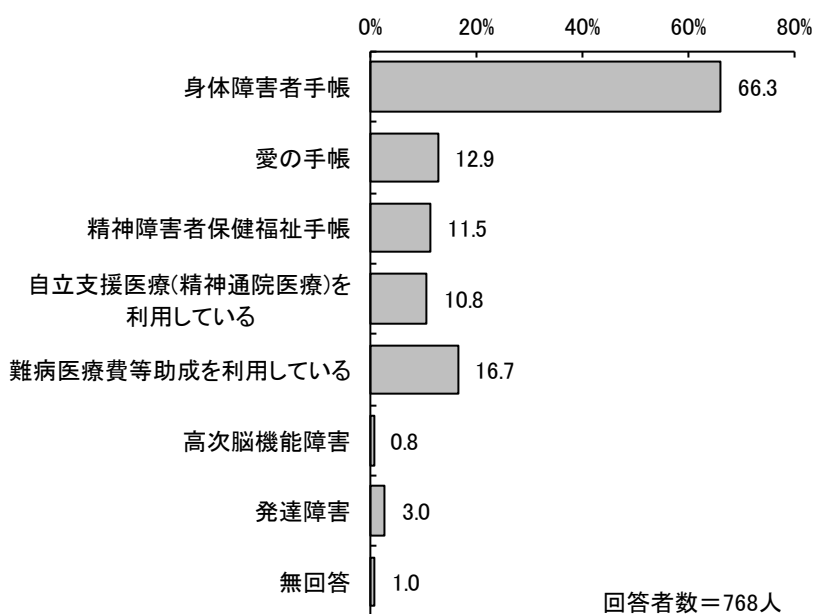
## (2) 障害の種類と程度

### ① 所持している障害者手帳等

所持している障害者手帳は、「身体障害者手帳」66.3%、「愛の手帳」12.9%、「精神障害者保健福祉手帳」11.5%となっている。また、「自立支援医療（精神通院医療）を利用している」は10.8%であり、精神障害者保健福祉手帳を所持または自立支援医療（精神通院医療）を利用している精神障害者の割合は全体の14.6%となっている。

「難病医療費等助成を利用している」16.7%、「高次脳機能障害」0.8%、「発達障害」3.0%となっている。

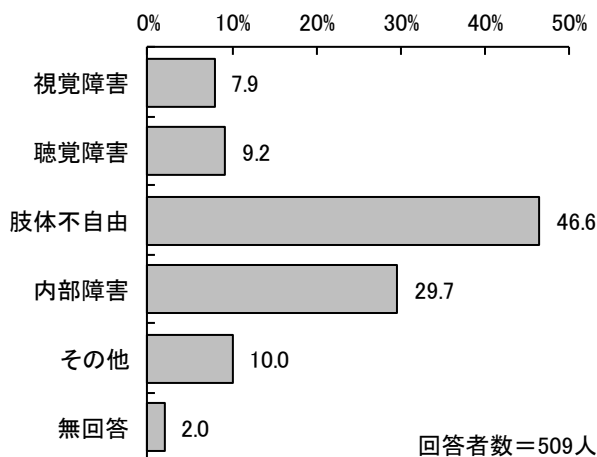
図表4 所持している障害者手帳等(複数回答)



### ② 身体障害者の障害の種類

身体障害の種類は、「肢体不自由」46.6%、「内部障害」29.7%、「聴覚障害」9.2%、「視覚障害」7.9%の順となっている。

図表5 身体障害の種類(複数回答)





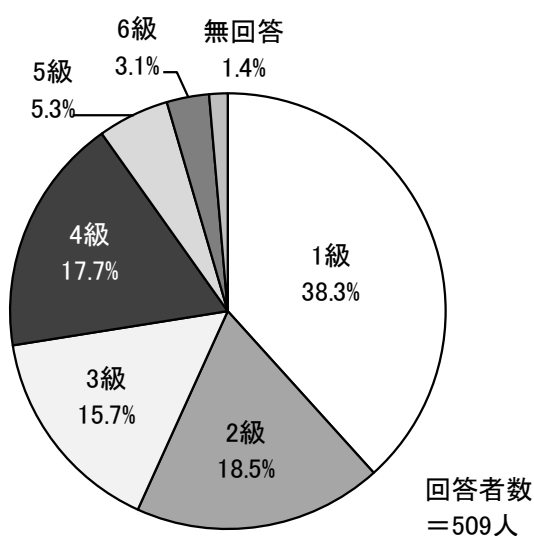
### ③障害の程度

身体障害者手帳の程度は、「1級」が38.3%ともっとも高く、次いで「2級」18.5%、「4級」17.7%、「3級」15.7%の順となっている。

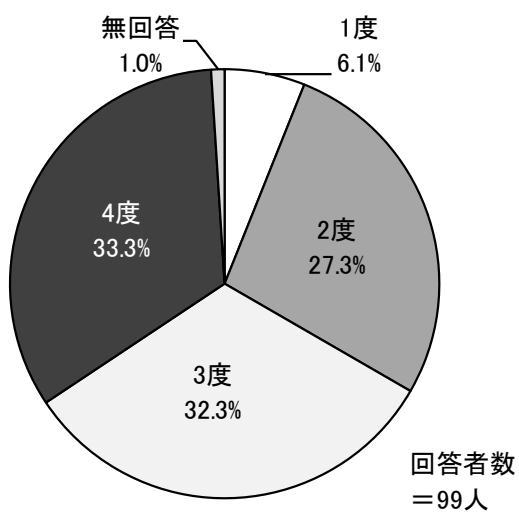
愛の手帳の程度は、「4度」33.3%、「3度」32.3%、「2度」27.3%、「1度」6.1%の順となっている。

精神障害者保健福祉手帳の程度は、「2級」が47.7%と約半数で、「3級」37.5%、「1級」9.1%となっている。

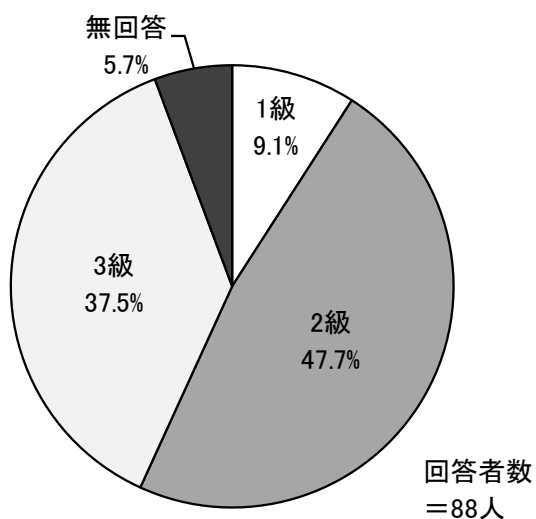
図表6 身体障害者手帳の程度(単数回答)



図表7 愛の手帳の程度(単数回答)



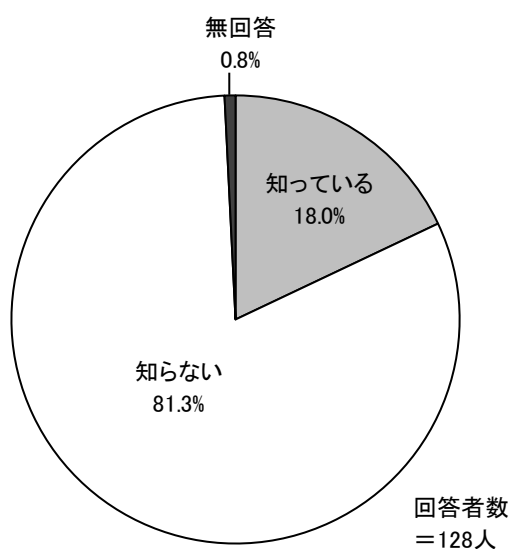
図表8 精神障害者保健福祉手帳の程度(単数回答)



### (3) 難病等の方が障害福祉サービス等の対象に加わったことの認知度

難病等の方が障害福祉サービス等の対象に加わったことについて、「知っている」は18.0%であり、「知らない」が81.3%と約8割を占めている。

図表9 難病等の方が障害福祉サービス等の対象に加わったことの認知度(単数回答)

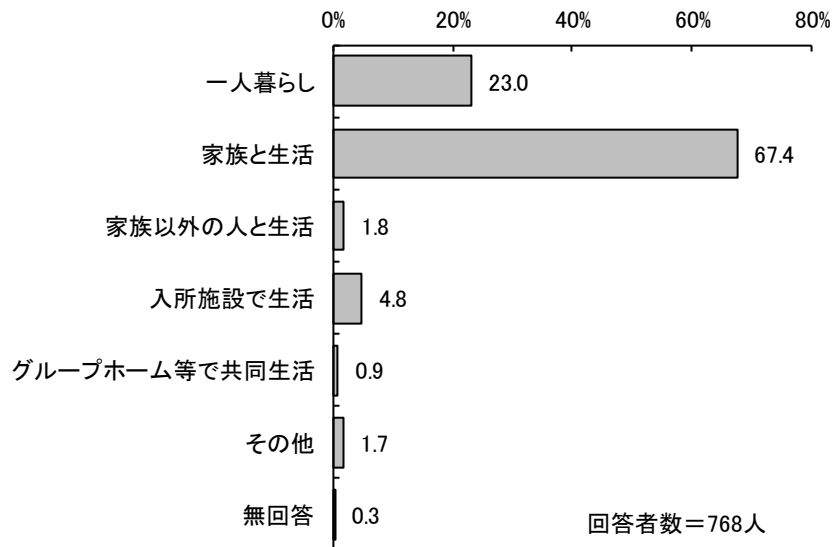


## 2. 暮らし方について

### (1)現在の暮らし方

現在の暮らし方は、「家族と生活」67.4%がもっとも高い。次いで、「一人暮らし」23.0%、「入所施設で生活」4.8%、「家族以外の人と生活」1.8%「グループホーム等で共同生活」0.9%となっている。

図表10 現在の暮らし方(単数回答)



### <障害別にみたポイント>

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病医療費等助成利用者は「家族と生活」が6割台、発達障害児（者）は8割台を占め、高次脳機能障害は100.0%となっている。
- ・知的障害者は施設等（入所施設・グループホーム等）での生活者が24.2%となっている。

図表11 現在の暮らし方(障害別)

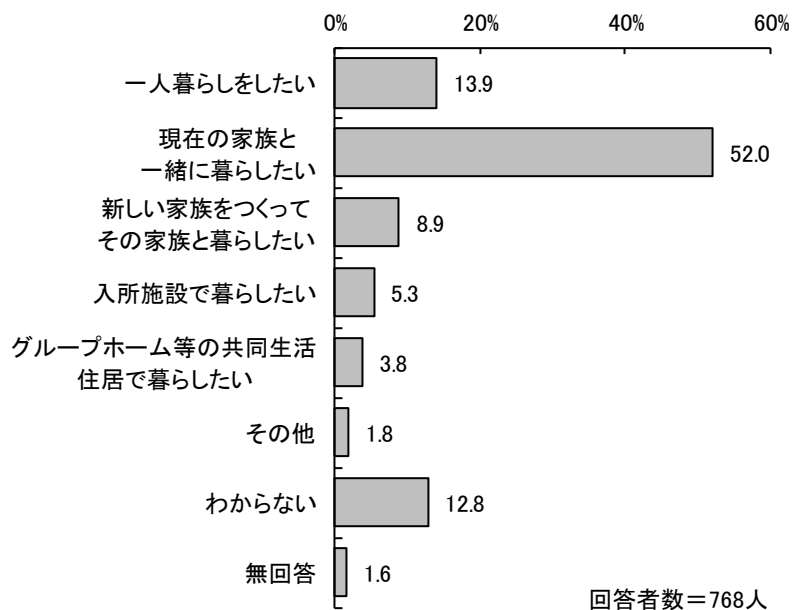
(単位: %)

		回答者数(人)	一人暮らし	家族と生活	生活 家族以外の人と	入所施設で生活	グループホーム等で共同生活	その他	無回答
全体		768	23.0	<b>67.4</b>	1.8	4.8	0.9	1.7	0.3
障害別	身体障害者	509	24.6	<b>68.0</b>	2.0	3.3	0.6	1.6	0.0
	知的障害者	99	4.0	<b>68.7</b>	1.0	22.2	2.0	2.0	0.0
	精神障害者	112	30.4	<b>60.7</b>	0.9	0.9	4.5	2.7	0.0
	難病医療費等助成利用者	128	25.0	<b>68.0</b>	2.3	2.3	0.8	1.6	0.0
	高次脳機能障害者	6	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達障害児（者）	23	13.0	<b>87.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## (2) 将来希望する暮らし方

将来希望する暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が52.0%と約半数を占めるのに次いで、「一人暮らしをしたい」13.9%、「新しい家族をつくってその家族と暮らしたい」8.9%、「入所施設で暮らしたい」5.3%、「グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」3.8%の順となっている。

図表12 将来希望する暮らし方(単数回答)



<障害別にみたポイント>

- ・身体障害者及び難病医療費等助成利用者は 5 割以上が「現在の家族と一緒に暮らしたい」。
- ・知的障害者は「現在の家族と一緒に暮らしたい」が 37.4%。「入所施設で暮らしたい」「グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」が各 17.2%。
- ・精神障害者は「現在の家族と一緒に暮らしたい」40.2%に次いで、「一人暮らしをしたたい」22.3%、「新しい家族をつくってその家族と暮らしたい」12.5%。
- ・発達障害児（者）は「現在の家族と一緒に暮らしたい」30.4%に次いで、「新しい家族をつくってその家族と暮らしたい」26.1%。

図表13 将来希望する暮らし方(障害別)

(単位:%)

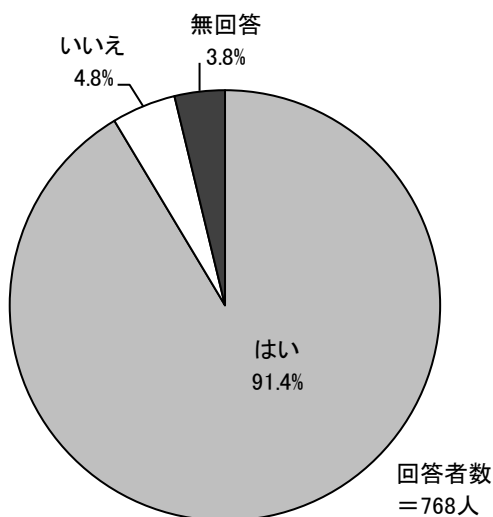
		回答者数(人)	一人暮らしをしたたい	現在の家族と一緒に暮らしたい	新しい家族をつくってその家族と暮らしたい	入所施設で暮らしたい	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体		768	13.9	<b>52.0</b>	8.9	5.3	3.8	1.8	12.8	1.6
障害別	身体障害者	509	14.7	<b>55.8</b>	8.1	4.7	2.4	2.6	10.6	1.2
	知的障害者	99	5.1	<b>37.4</b>	3.0	17.2	17.2	1.0	18.2	1.0
	精神障害者	112	22.3	<b>40.2</b>	12.5	1.8	5.4	0.0	16.1	1.8
	難病医療費等助成利用者	128	10.2	<b>56.3</b>	12.5	5.5	2.3	0.8	12.5	0.0
	高次脳機能障害者	6	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	<b>50.0</b>	0.0
	発達障害児（者）	23	13.0	<b>30.4</b>	26.1	0.0	4.3	0.0	21.7	4.3

### (3)現在の居住地と将来希望する居住地

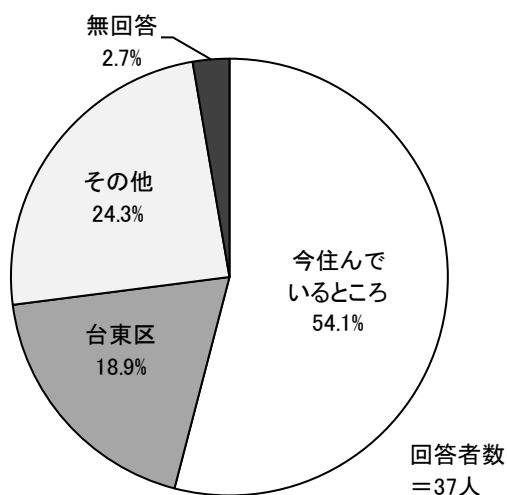
現在の居住地は、台東区内の人（「はい」と回答）が91.4%を占め、台東区外の人（「いいえ」と回答）は4.8%となっている。

台東区外に居住している人が将来希望する居住地をみると、「今住んでいるところ」は54.1%となっている。

図表14 現在の居住地(単数回答)



図表15 区外居住者が将来希望する居住地(単数回答)

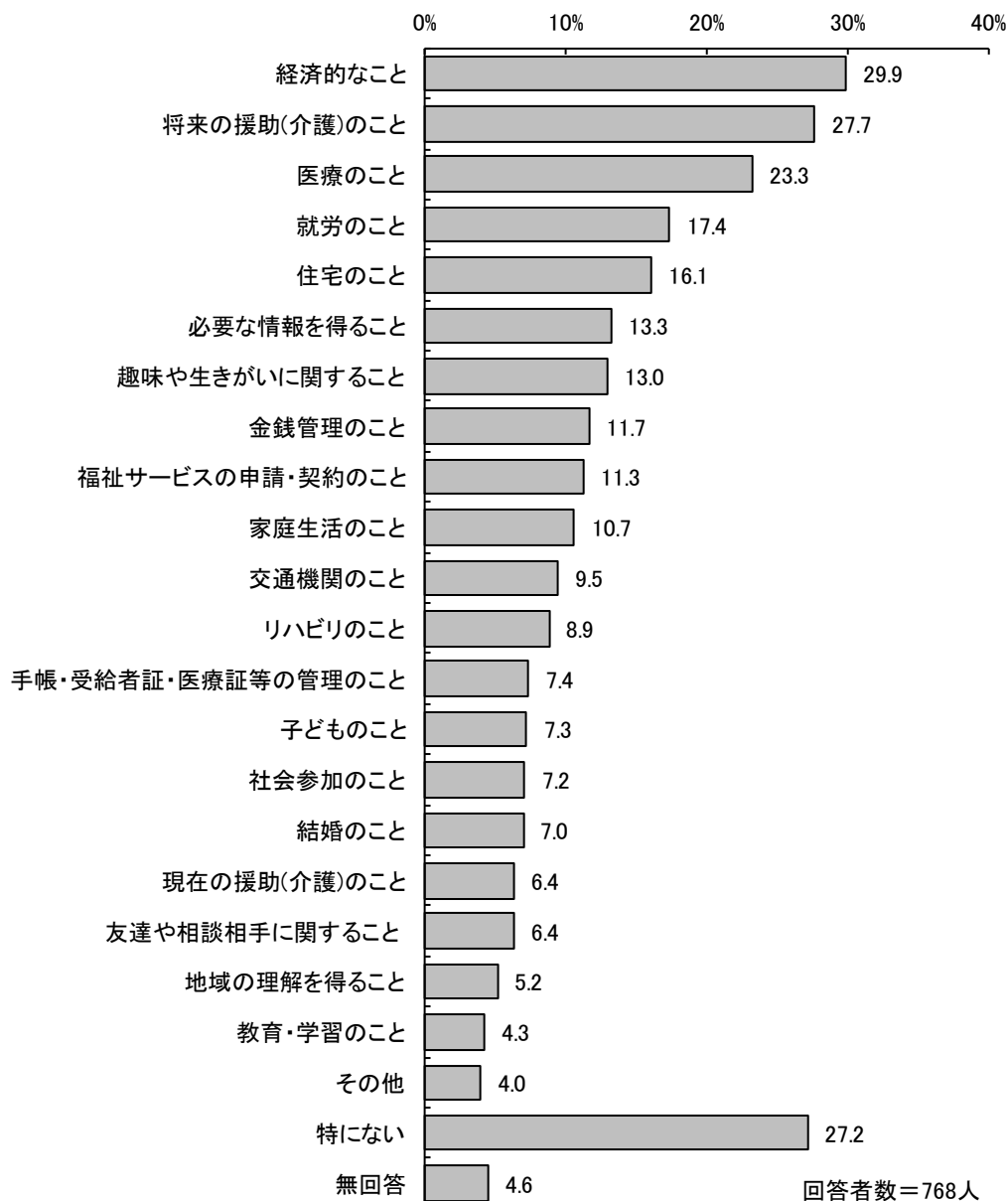


### 3. 日常生活について

#### (1)生活の中での悩みごと

生活の中での悩みごとは、「経済的なこと」29.9%、「将来の援助(介護)のこと」27.7%、「医療のこと」23.3%が上位3位であり、2割以上からあげられている。次いで、「就労のこと」17.4%、「住宅のこと」16.1%の順で続いている。

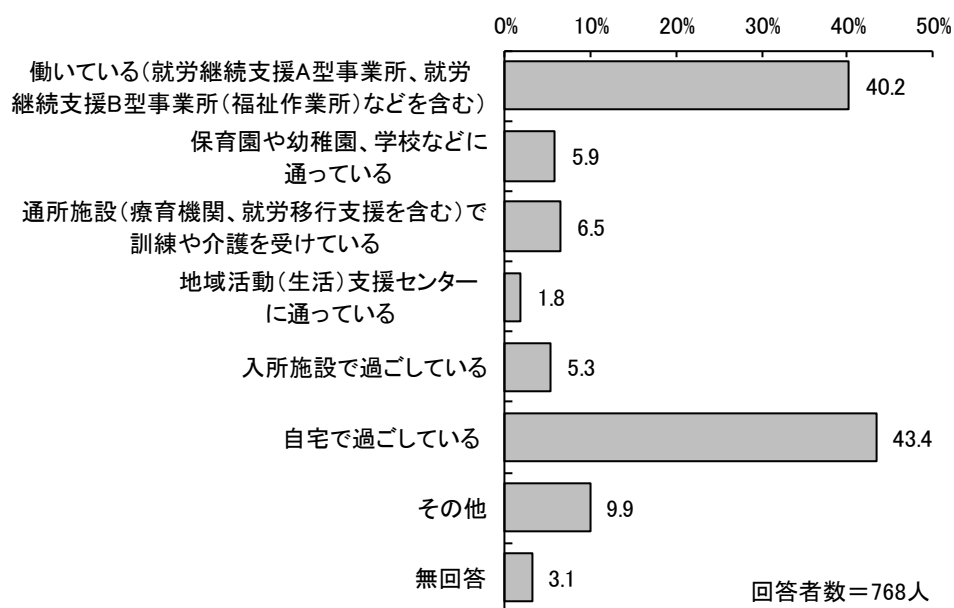
図表16 生活の中での悩みごと(複数回答)



## (2) 現在の日中の過ごし方

現在の日中の過ごし方は、「自宅で過ごしている」がもっとも高く 43.4%となっている。次いで「働いている（就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所（福祉作業所）などを含む）」40.2%が続いている。このほか「通所施設（療育機関、就労移行支援を含む）で訓練や介護を受けている」6.5%、「保育園や幼稚園、学校などに通っている」5.9%、「入所施設で過ごしている」5.3%、「地域活動（生活）支援センターに通っている」1.8%となっている。

図表17 現在の日中の過ごし方（複数回答）





<障害別にみたポイント>

- ・身体障害者及び精神障害者、難病医療費等助成利用者は「自宅で過ごしている」割合がもっとも高い。
- ・知的障害者は「働いている（就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所（福祉作業所）などを含む）」が37.4%、次いで「入所施設で過ごしている」が21.2%。
- ・高次脳機能障害者は「働いている（就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所（福祉作業所）などを含む）」が5割を占め、次いで「自宅で過ごしている」33.3%。
- ・発達障害児（者）は「保育園や幼稚園、学校などに通っている」が56.5%、次いで「自宅で過ごしている」が26.1%。

図表18 現在の日中の過ごし方(障害別)

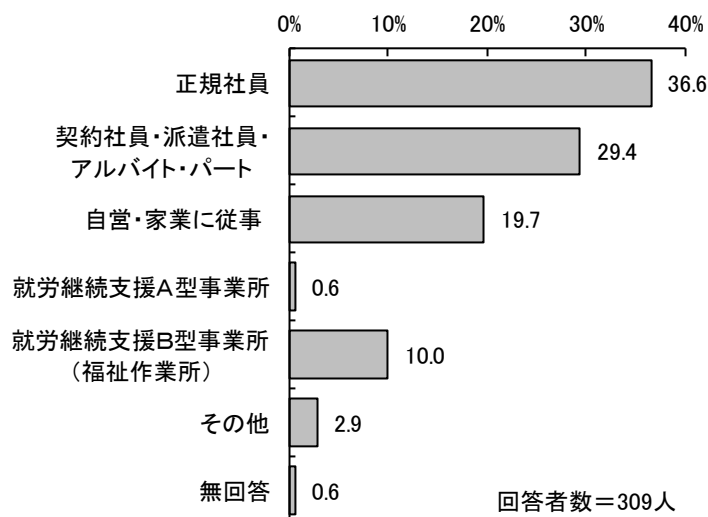
(単位:%)

		回答者数(人)	働いている(就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所(福祉作業所)などを含む)	保育園や幼稚園、学校などに通っている	通所施設(療育機関、就労移行支援を含む)で訓練や介護を受けている	地域活動(生活)支援センターに通っている	入所施設で過ごしている	自宅で過ごしている	その他	無回答
全体		768	40.2	5.9	6.5	1.8	5.3	<b>43.4</b>	9.9	3.1
障害別	身体障害者	509	39.9	3.1	6.9	1.6	3.9	<b>46.0</b>	11.8	3.7
	知的障害者	99	<b>37.4</b>	17.2	14.1	1.0	21.2	13.1	6.1	3.0
	精神障害者	112	35.7	1.8	10.7	5.4	3.6	<b>52.7</b>	8.0	0.0
	難病医療費等助成利用者	128	43.0	0.8	3.9	1.6	3.1	<b>50.0</b>	10.2	4.7
	高次脳機能障害者	6	<b>50.0</b>	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	発達障害児(者)	23	8.7	<b>56.5</b>	13.0	0.0	0.0	26.1	13.0	0.0

### (3) 就労状況

働いている人の働き方は、「正規社員」36.6%、「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」29.4%、「自営・家業に従事」19.7%の順であり、これらをあわせた一般就労者の割合が85.7%を占める。「就労継続支援B型事業所（福祉作業所）」は10.0%、「就労継続支援A型事業所」は0.6%となっている。

図表19 働き方(単数回答)



#### <障害別にみたポイント>

- ・一般就労の方の割合（「正規社員」＋「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」＋「自営・家業に従事」）は、身体障害者と難病医療費等助成利用者は9割を超え、知的障害者は43.2%、精神障害者62.5%、高次脳機能障害者33.3%、発達障害児（者）50.0%となっている。
- ・知的障害者及び発達障害児（者）は「就労継続支援B型事業所（福祉作業所）」が5割を占め、他の障害に比べて割合が高くなっている。

図表20 働き方(障害別)

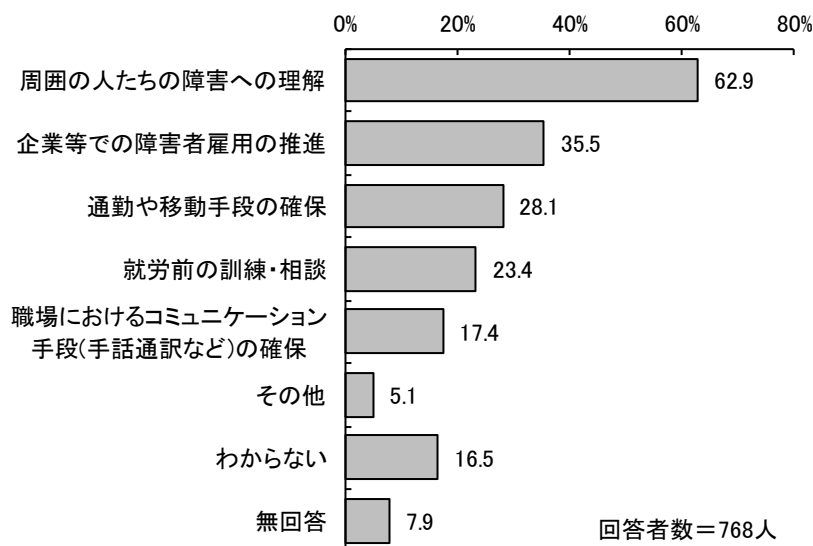
(単位:%)

		回答者数(人)	正規社員	契約社員・派遣社員・アルバイト・パート	自営・家業に従事	就労継続支援A型事業所	就労継続支援B型事業所(福祉作業所)	その他	無回答
全体		309	<b>36.6</b>	29.4	19.7	0.6	10.0	2.9	0.6
障害別	身体障害者	203	<b>40.4</b>	28.6	24.6	0.5	2.5	3.0	0.5
	知的障害者	37	10.8	24.3	8.1	2.7	<b>51.4</b>	2.7	0.0
	精神障害者	40	30.0	25.0	7.5	0.0	<b>32.5</b>	5.0	0.0
	難病医療費等助成利用者	55	<b>47.3</b>	34.5	12.7	0.0	0.0	1.8	3.6
	高次脳機能障害者	3	0.0	<b>33.3</b>	0.0	0.0	<b>33.3</b>	0.0	<b>33.3</b>
	発達障害児（者）	2	0.0	<b>50.0</b>	0.0	0.0	<b>50.0</b>	0.0	0.0

#### (4)働きやすい環境にするために必要なこと

働きやすい環境にするために必要なこととしては、「周囲の人たちの障害への理解」62.9%がもっとも高い。次いで、「企業等での障害者雇用の推進」35.5%、「通勤や移動手段の確保」28.1%の順となっている。

図表21 働きやすい環境にするために必要なこと(複数回答)



#### <障害別にみたポイント>

- ・ どの障害の人も「周囲の人たちの障害への理解」が第1位。
- ・ 第2位は、身体障害者及び精神障害者、難病医療費等助成利用者、高次脳機能障害者、発達障害児(者)は「企業等での障害者雇用の推進」。知的障害者は「就労前の訓練・相談」。

図表22 働きやすい環境にするために必要なこと(障害別)

(単位:%)

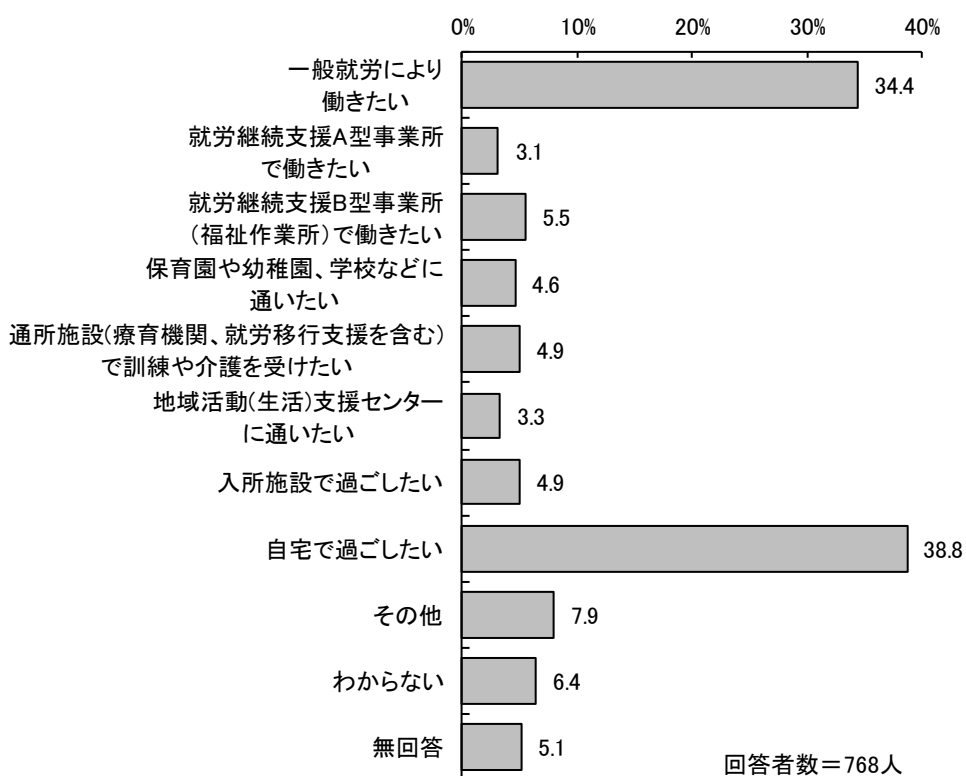
		回答者数(人)	周囲の人たちの障害への理解	企業等での障害者雇用の推進	通勤や移動手段の確保	就労前の訓練・相談	職場におけるコミュニケーション手段(手話通訳など)の確保	その他	わからない	無回答
全体		768	<b>62.9</b>	35.5	28.1	23.4	17.4	5.1	16.5	7.9
障害別	身体障害者	509	<b>63.5</b>	38.1	31.0	21.0	17.9	4.3	16.1	7.7
	知的障害者	99	<b>59.6</b>	35.4	31.3	39.4	26.3	7.1	21.2	8.1
	精神障害者	112	<b>62.5</b>	36.6	25.0	34.8	16.1	6.3	14.3	8.9
	難病医療費等助成利用者	128	<b>64.8</b>	31.3	25.0	18.8	12.5	3.9	13.3	10.2
	高次脳機能障害者	6	<b>83.3</b>	66.7	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達障害児(者)	23	<b>69.6</b>	56.5	21.7	52.2	34.8	8.7	13.0	4.3

## (5) 希望する日中の過ごし方

希望する日中の過ごし方としては、『働きたい』（「一般就労により働きたい」34.4%、「就労継続支援B型事業所（福祉作業所）で働きたい」5.5%、「就労継続支援A型事業所で働きたい」3.1%となっている。このいずれかに○をした人）との意向を示した人の割合は39.2%であり（複数回答であるため合算値とは一致しない）、現状40.2%（12ページ）を1ポイント下回っている。

「自宅で過ごしたい」は38.8%であり、現状（12ページ）と比較すると4.6ポイント下回る結果となった。

図表23 希望する日中の過ごし方（複数回答）



<障害別にみたポイント>

- ・身体障害者、精神障害者、難病医療費等助成利用者、高次脳機能障害者は「自宅で過ごしたい」、知的障害者は「就労継続支援B型事業所（福祉作業所）で働きたい」、発達障害児（者）は「保育園や幼稚園、学校などに通いたい」との意向がそれぞれもっとも高い。
- ・『働きたい』と回答した人の割合は、身体障害者 38.5%、知的障害者 41.4%、精神障害者 42.9%、難病医療費等助成利用者 39.1%、高次脳機能障害者 50.0%、発達障害児（者） 39.1%。
- ・知的障害者は「入所施設で過ごしたい」が 16.2%。現状（13 ページ）と比較すると 5.0 ポイント低い。

図表24 希望する日中の過ごし方(障害別)

(単位: %)

		回答者数(人)	一般就労により働きたい	就労継続支援A型事業所で働きたい	就労継続支援B型事業所(福祉作業所)で働きたい	保育園や幼稚園、学校などに通いたい	通所施設(療育機関、就労移行支援を含む)で訓練や介護を受けたい	地域活動(生活)支援センターに通いたい	入所施設で過ごしたい	自宅で過ごしたい	その他	わからない	無回答	『働きたい』
全体		768	34.4	3.1	5.5	4.6	4.9	3.3	4.9	<b>38.8</b>	7.9	6.4	5.1	39.2
障害別	身体障害者	509	36.1	2.6	2.8	2.6	4.9	2.8	4.1	<b>42.2</b>	8.1	6.1	5.1	38.5
	知的障害者	99	20.2	5.1	<b>22.2</b>	10.1	12.1	3.0	16.2	10.1	2.0	9.1	10.1	41.4
	精神障害者	112	31.3	6.3	11.6	0.9	5.4	4.5	2.7	<b>41.1</b>	11.6	7.1	4.5	42.9
	難病医療費等助成利用者	128	39.1	0.8	0.8	2.3	6.3	7.0	5.5	<b>43.0</b>	3.9	3.9	5.5	39.1
	高次脳機能障害者	6	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	<b>50.0</b>	0.0	0.0	0.0	50.0
	発達障害児(者)	23	34.8	4.3	8.7	<b>47.8</b>	8.7	0.0	0.0	26.1	13.0	4.3	4.3	39.1

※『働きたい』は、「一般就労などにより働きたい」「就労継続支援A型事業所で働きたい」「就労継続支援B型事業所(福祉作業所)で働きたい」のいずれかに○をした人の割合(複数回答であるため合算値とは一致しない)

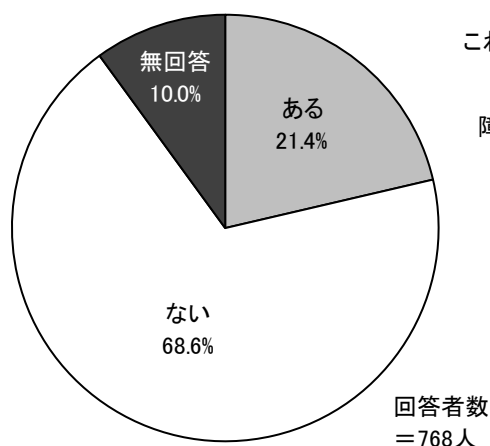
## 4. 障害福祉サービスについて

### (1) 障害福祉サービスの利用状況

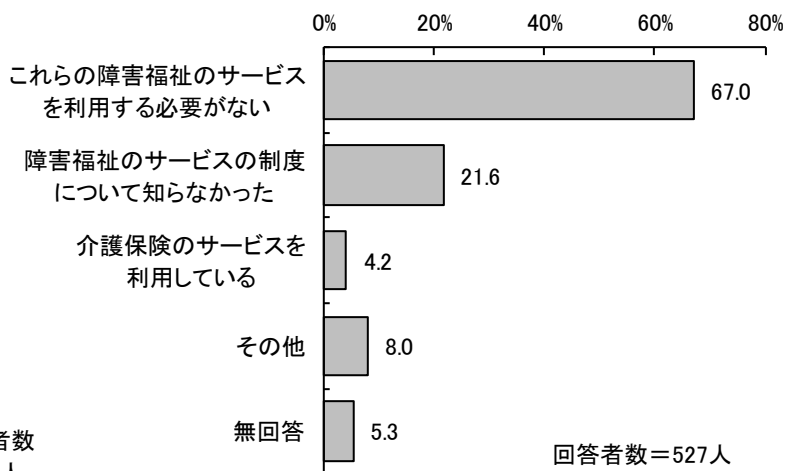
障害福祉サービスの利用状況について、「ある」は21.4%と、おおよそ5人に1人が利用していると回答しており、前回調査より減少している。

「ない」(68.6%)と回答した人のサービスを利用していない理由としては、「これらの障害福祉のサービスを利用する必要がない」が67.0%、次いで「障害福祉のサービスの制度について知らなかった」21.6%となっている。

図表25 障害福祉サービスの利用状況(単数回答)



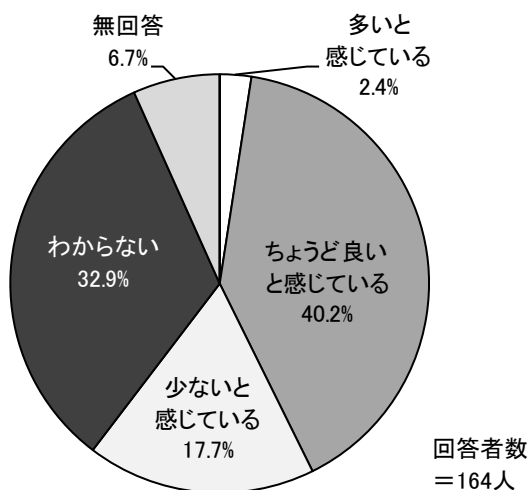
図表26 利用していない理由(複数回答)



### (2) サービスの支給決定内容の満足度

サービスの支給決定内容(量)について「ちょうど良いと感じている」は40.2%であり、「少ないと感じている」は17.7%となっている。

図表27 サービスの支給決定内容の満足度(単数回答)

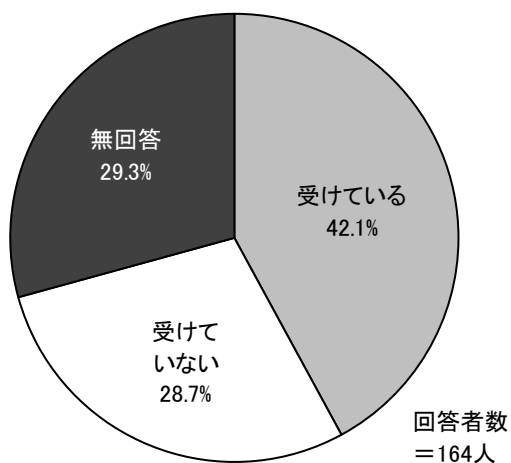


### (3)障害支援(程度)区分の認定状況

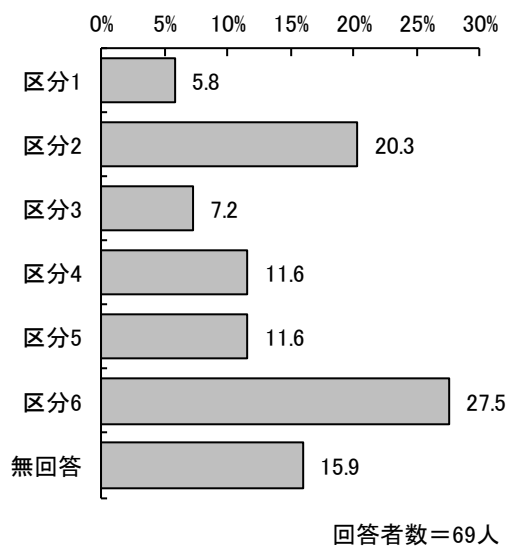
障害支援(程度)区分の認定については、「受けている」が42.1%を占めている。

障害支援(程度)区分の認定を受けている場合の区分は、「区分1」5.8%、「区分2」20.3%、「区分3」7.2%、「区分4」「区分5」各11.6%、「区分6」27.5%となっている。

図表28 障害支援(程度)区分の認定状況(単数回答)



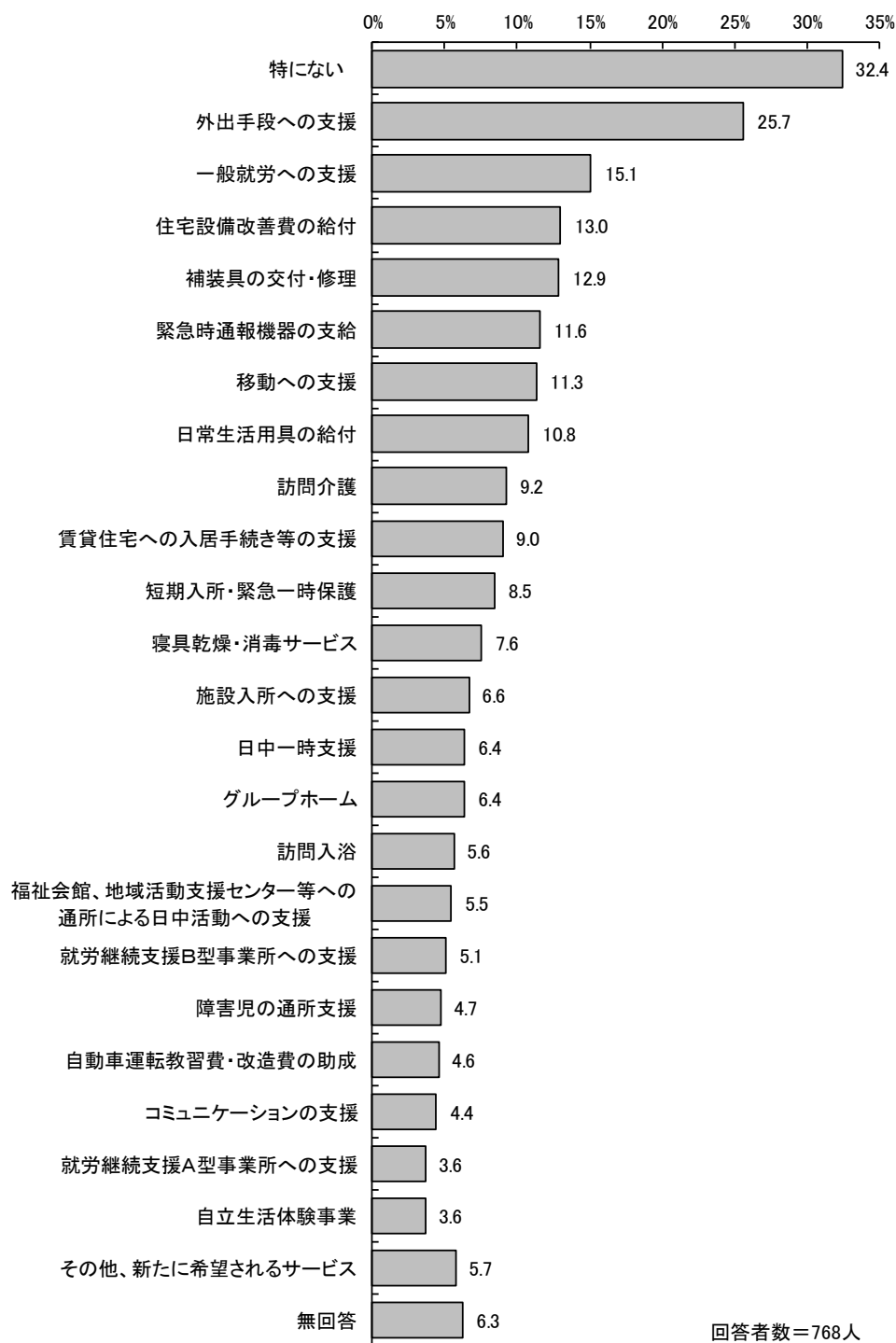
図表29 障害支援(程度)区分(単数回答)



#### (4) 今後、充実を希望するサービス

今後、充実を希望するサービスとしては、「特にない」が32.4%であり、次いで「外出手段への支援」25.7%、「一般就労への支援」15.1%、「住宅設備改善費の給付」13.0%、「補装具の交付・修理」12.9%となっている。

図表30 今後、充実を希望するサービス(複数回答)





<障害別にみたポイント>

「特にない」を除いた上位

- ・身体障害者は「外出手段への支援」「補装具の交付・修理」。
- ・知的障害者は「グループホーム」「移動への支援」。
- ・精神障害者は「一般就労への支援」「外出手段への支援」。
- ・難病医療費等助成利用者は「外出手段への支援」「住宅設備改善費の給付」「訪問介護」。
- ・高次脳機能障害者は「賃貸住宅への入居手続き等の支援」。
- ・発達障害児（者）は「一般就労への支援」「障害児の通所支援」。
- ・発達障害児（者）は、「その他、新たに希望されるサービス」が他の障害より割合が高い。

図表31 今後、充実を希望するサービス(障害別)

(単位:%)

	回答者数(人)	特にない	外出手段への支援	一般就労への支援	住宅設備改善費の給付	補装具の交付・修理	緊急時通報機器の支給	移動への支援	日常生活用具の給付	訪問介護	賃貸住宅への入居手続き等の支援	短期入所・緊急一時保護	寝具乾燥・消毒サービス	施設入所への支援	
全体	768	<b>32.4</b>	25.7	15.1	13.0	12.9	11.6	11.3	10.8	9.2	9.0	8.5	7.6	6.6	
障害別	身体障害者	509	<b>33.2</b>	29.7	13.6	14.9	17.5	13.0	10.4	12.0	10.0	6.7	8.3	4.5	
	知的障害者	99	19.2	21.2	13.1	7.1	9.1	5.1	29.3	9.1	5.1	25.3	5.1	22.2	
	精神障害者	112	22.3	22.3	<b>25.9</b>	12.5	3.6	15.2	12.5	12.5	9.8	11.6	8.0	13.4	4.5
	難病医療費等助成利用者	128	<b>33.6</b>	30.5	15.6	16.4	10.9	12.5	9.4	12.5	16.4	11.7	8.6	10.9	7.8
	高次脳機能障害者	6	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	<b>50.0</b>	16.7	33.3	0.0
	発達障害児（者）	23	26.1	8.7	<b>39.1</b>	4.3	4.3	0.0	13.0	8.7	0.0	4.3	4.3	8.7	4.3

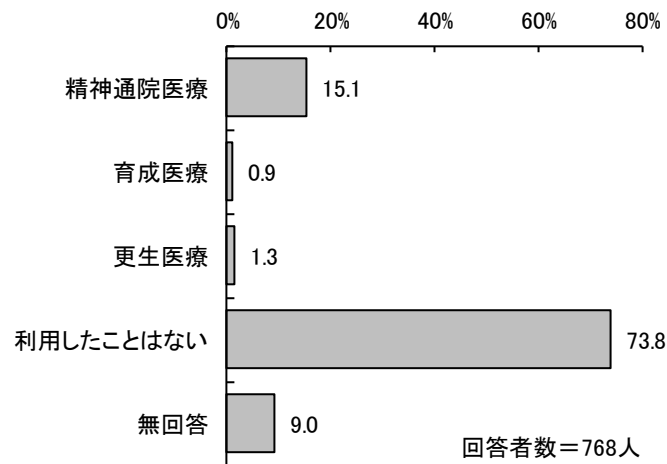
	回答者数(人)	日中一時支援	グループホーム	訪問入浴	福祉会館、地域活動支援センター等への通所による日中活動への支援	就労継続支援B型事業所への支援	障害児の通所支援	費の助成	自動車運転教習費・改造	コミュニケーションの支援	就労継続支援A型事業所への支援	自立生活体験事業	その他、新たに希望されるサービス	無回答
全体	768	6.4	6.4	5.6	5.5	5.1	4.7	4.6	4.4	3.6	3.6	3.6	5.7	6.3
障害別	身体障害者	509	5.7	2.9	6.1	5.7	3.1	2.6	5.5	5.5	2.8	1.8	4.7	6.5
	知的障害者	99	17.2	<b>31.3</b>	3.0	12.1	15.2	16.2	3.0	3.0	8.1	14.1	6.1	5.1
	精神障害者	112	8.0	11.6	8.0	7.1	10.7	3.6	6.3	1.8	5.4	5.4	8.9	6.3
	難病医療費等助成利用者	128	6.3	3.1	10.2	7.8	2.3	0.8	3.1	3.1	3.1	2.3	4.7	10.2
	高次脳機能障害者	6	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達障害児（者）	23	4.3	4.3	0.0	17.4	13.0	30.4	4.3	4.3	8.7	8.7	26.1	4.3

## 5. 自立支援医療などについて

### (1) 自立支援医療の利用状況

自立支援医療の利用状況は、『利用したことがある』人の割合（100%から「利用したことはない」「無回答」を除いた割合）は17.2%となっている。利用したことがある自立支援医療としては、「精神通院医療」が15.1%、「更生医療」が1.3%、「育成医療」が0.9%となっている。

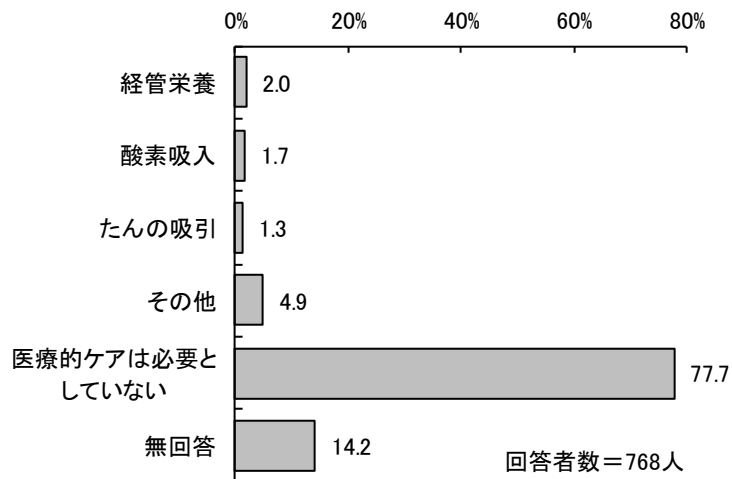
図表32 自立支援医療の利用状況(複数回答)



### (2) 医療的ケアの必要性

医療的ケアの必要性をみると、『必要としている』人の割合（100%から「医療的ケアは必要としていない」「無回答」を除いた割合）は8.1%となっている。必要とする医療的ケアは、「経管栄養」が2.0%、「酸素吸入」が1.7%、「たんの吸引」が1.3%となっている。

図表33 医療的ケアの必要性(複数回答)

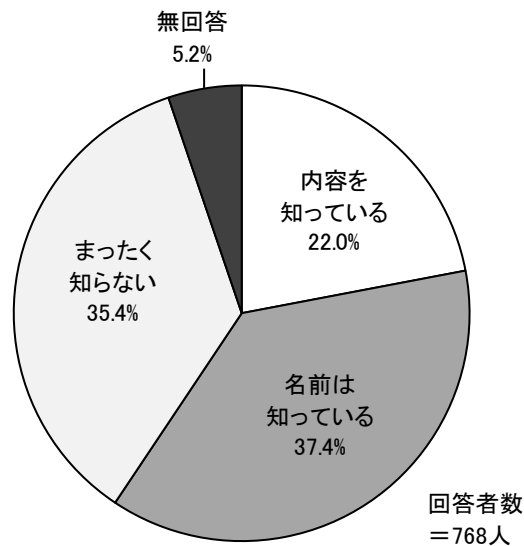


## 6. 権利擁護について

### (1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度は、「内容を知っている」22.0%と「名前は知っている」37.4%の合計は59.4%となっている。

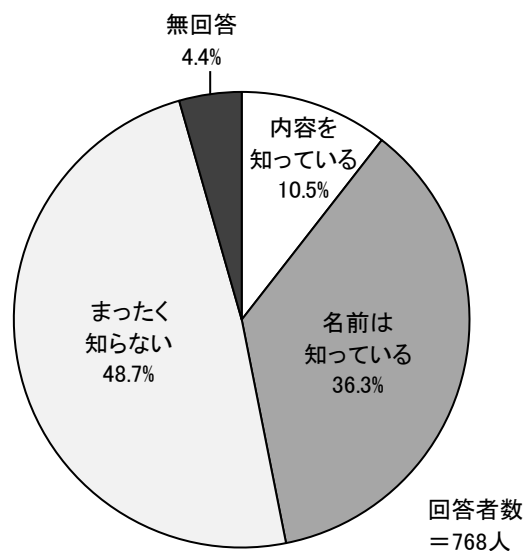
図表34 成年後見制度の認知度(単数回答)



### (2) 障害者虐待防止法の認知度

障害者虐待防止法の認知度は、「内容を知っている」10.5%と「名前は知っている」36.3%の合計は46.8%となっている。

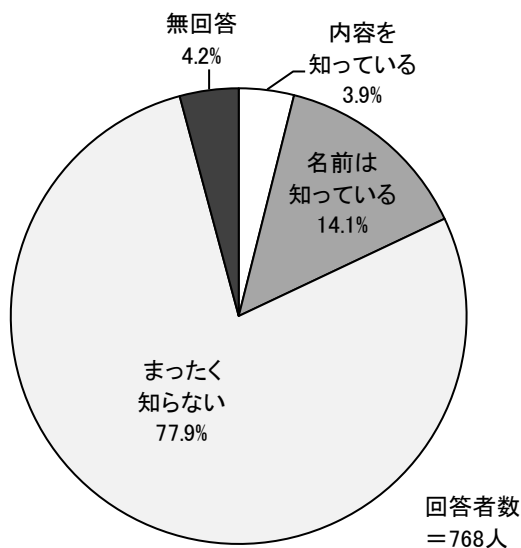
図表35 障害者虐待防止法の認知度(単数回答)



### (3) 障害者虐待防止センターの認知度

障害者虐待防止センターの認知度は、「内容を知っている」3.9%と「名前は知っている」14.1%の合計は18.0%となっている。

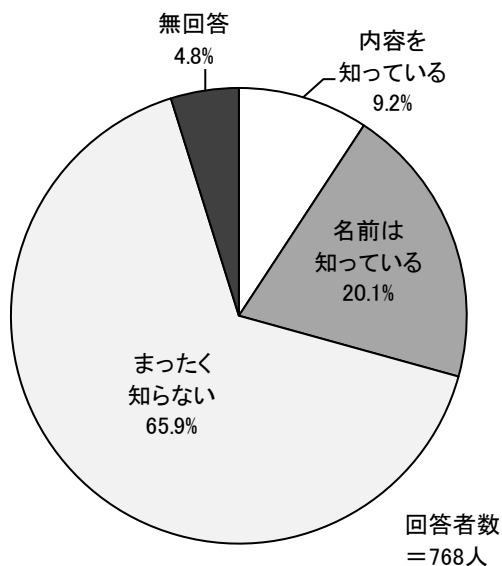
図表36 障害者虐待防止センターの認知度(単数回答)



### (4) 障害者差別解消法の認知度

障害者差別解消法の認知度は、「内容を知っている」9.2%と「名前は知っている」20.1%の合計は29.3%となっている。

図表37 障害者差別解消法の認知度(単数回答)

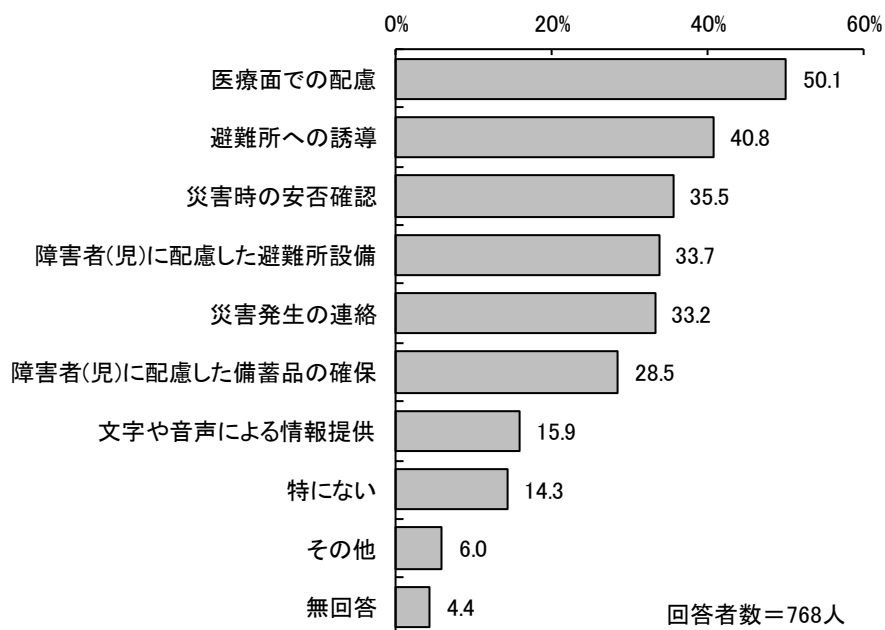


## 7. 区に対する要望などについて

### (1) 災害時に必要とするもの

災害時に必要とするものとしては、「医療面での配慮」50.1%、「避難所への誘導」40.8%、「災害時の安否確認」35.5%が上位3位となっている。

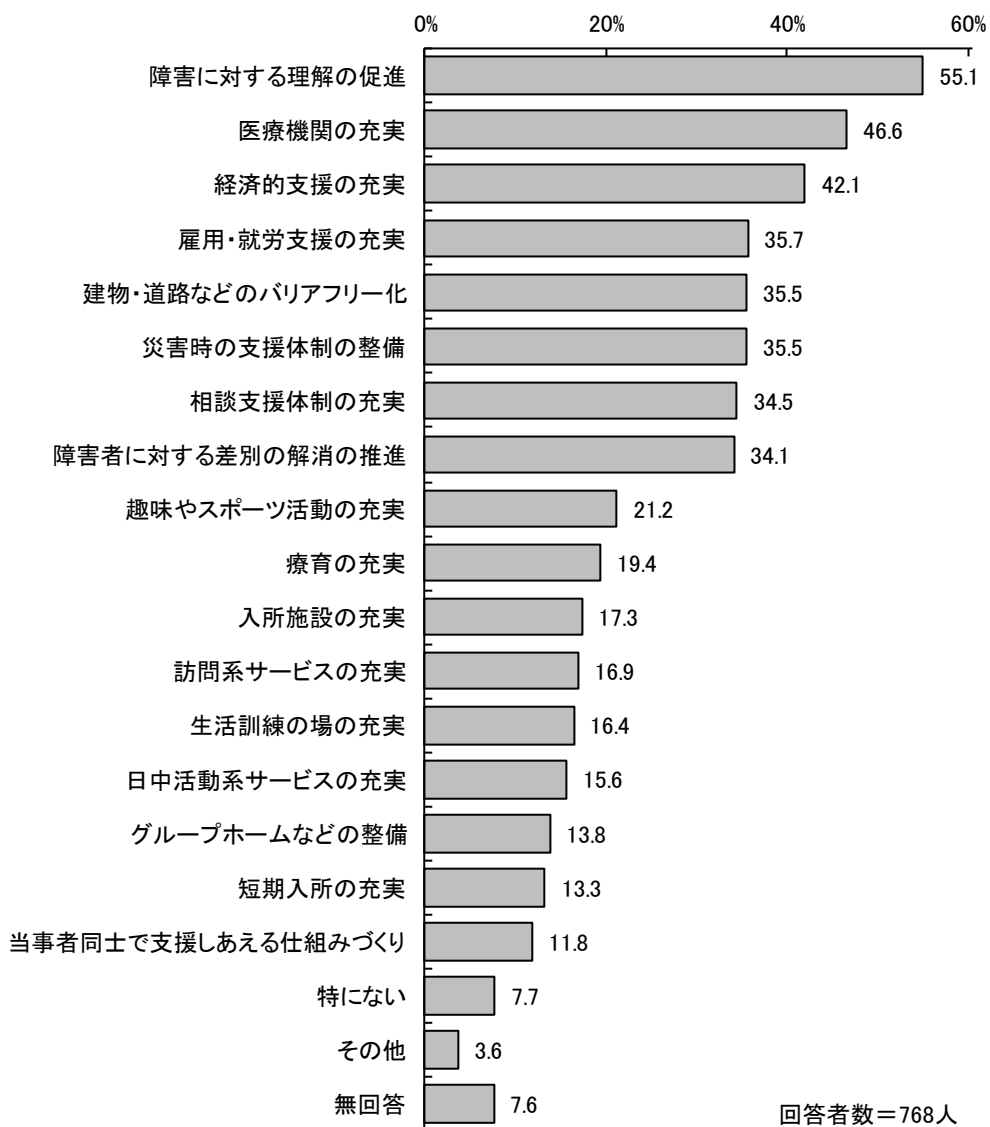
図表38 災害時に必要とするもの(複数回答)



## (2) 地域で安心して暮らすために重要と思う施策

地域で安心して暮らすために重要と思う施策としては、「障害に対する理解の促進」55.1%、「医療機関の充実」46.6%、「経済的支援の充実」42.1%、「雇用・就労支援の充実」35.7%、「建物・道路などのバリアフリー化」「災害時の支援体制の整備」各35.5%が上位となっている。

図表39 地域で安心して暮らすために重要と思う施策(複数回答)



<障害別にみたポイント>

- ・身体障害者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「医療機関の充実」「建物・道路などのバリアフリー化」。
- ・知的障害者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「経済的支援の充実」「相談支援体制の充実」。
- ・精神障害者及び難病医療費等助成利用者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「経済的支援の充実」「医療機関の充実」。
- ・高次脳機能障害者の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「医療機関の充実」「災害時の支援体制の整備」。
- ・発達障害児（者）の上位3位は、「障害に対する理解の促進」「経済的支援の充実」「雇用・就労支援の充実」「療育の充実」。
- ・知的障害者は「グループホームなどの整備」「入所施設の充実」などが、それぞれ他の障害に比べて高い。

図表40 地域で安心して暮らすために重要と思う施策(障害別)

(単位:%)

		回答者数(人)	障害に対する理解の促進	医療機関の充実	経済的支援の充実	雇用・就労支援の充実	建物・道路などのバリアフリー化	災害時の支援体制の整備	相談支援体制の充実	障害者に対する差別の解消の推進	趣味やスポーツ活動の充実	療育の充実
全体		768	<b>55.1</b>	46.6	42.1	35.7	35.5	35.5	34.5	34.1	21.2	19.4
障害別	身体障害者	509	<b>53.8</b>	47.9	38.9	33.0	40.9	39.1	31.0	31.8	19.8	15.7
	知的障害者	99	<b>57.6</b>	43.4	45.5	39.4	24.2	36.4	44.4	40.4	32.3	30.3
	精神障害者	112	<b>63.4</b>	53.6	58.9	43.8	23.2	37.5	45.5	47.3	31.3	25.0
	難病医療費等助成利用者	128	<b>57.0</b>	47.7	44.5	35.2	41.4	28.9	34.4	33.6	18.8	20.3
	高次脳機能障害者	6	<b>83.3</b>	<b>83.3</b>	50.0	66.7	16.7	<b>83.3</b>	50.0	50.0	16.7	16.7
	発達障害児（者）	23	<b>82.6</b>	43.5	65.2	65.2	26.1	34.8	56.5	60.9	34.8	65.2

		回答者数(人)	入所施設の充実	訪問系サービスの充実	生活訓練の場の充実	日中活動系サービスの充実	グループホームなどの整備	短期入所の充実	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	特になし	その他	無回答
全体		768	17.3	16.9	16.4	15.6	13.8	13.3	11.8	7.7	3.6	7.6
障害別	身体障害者	509	16.5	19.3	14.3	16.5	10.4	11.8	12.0	8.1	3.9	7.1
	知的障害者	99	33.3	16.2	30.3	26.3	38.4	25.3	20.2	7.1	6.1	4.0
	精神障害者	112	20.5	17.0	18.8	19.6	19.6	17.9	15.2	5.4	3.6	7.1
	難病医療費等助成利用者	128	16.4	16.4	18.0	10.2	12.5	15.6	10.2	5.5	1.6	11.7
	高次脳機能障害者	6	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	発達障害児（者）	23	21.7	17.4	34.8	21.7	26.1	21.7	30.4	4.3	0.0	4.3





---

台東区障害者実態調査 報告書  
概要版

平成 28 年 12 月

平成 28 年度登録第 8 号

発行 台東区福祉部障害福祉課  
〒110-8615 台東区東上野 4-5-6  
TEL 03 (5246) 1206

集計・分析 株式会社 コモン計画研究所  
〒166-0015 杉並区成田東 5-35-15  
THE PLAZA-F 2 階  
TEL 03 (3220) 5415

